

4. 冷媒配管工事

4－１．配管仕様の決定（室内機の仕様と据付場所に合わせ、以下の内容で選定してください。）

- (1) 配管の使用制限
- 配管工事は、必ず(1)項の配管サイズと使用制限を守り施工してください。
- 配管途中にトラップ(ㇿ) 鳥居(ㇿ) 配管は油溜まりの原因となりますので回避してください。

配管制限		
配管長		130m以内
許容高低差(ヘッド差)	(1)室外機が上位置の場合	50m以内
	(2)室外機が下位置の場合	40m以内
室外機から室外側分岐管までの配管制限(組合せ室外機)	(1)高低差	0.4m以内
	(2)室外機から室外側分岐管までの長さ	5m以内
	(3)均油管の配管長	10m以内

●注意
制限範囲外の設置は、圧縮機故障の原因となり保証対象外となります。
必ず使用制限を守り施工してください。

注. 室外機を組合せてご使用の場合は均油管を必ず接続ください。

- (2) 利用可能既設配管
- ▲警告 必ず既設配管の材質、配管径、肉厚を確認し設計圧力（許容圧力）3.24MPa以上であることを確認して使用ください。

- 既設配管は、1-2㉔のフローチャートで、利用可能な配管であることをご確認ください。
- 材質は、リン脱酸無銅管（C1220-O、1/2H、JIS H3300）とし、外径φ19.05以上はC1220-T、1/2Hであること。
- 利用可能配管サイズ

室外機	液配管サイズ					ガス配管サイズ				
	φ9.52	φ12.70	φ15.88	φ19.05	φ22.22	φ19.05	φ22.22	φ25.4	φ28.58	φ31.75
224	○※1	○	○※2			○※1	○	○		
280	○※1	○	○※2			○※1	○	○		
450		○	○※2			△	○	○	○	○
560		○※1	○	○※2			△	○※1	○	○

○印は利用可能を示します。
△印は既設配管が2系統ある場合に、2系統共使用し利用可能となる事を示します。
既設の2系統の配管は同一経路を平行して設置されていること。

- ※1. 配管長が90mを超える場合は使用できません。
※2. 配管長が80mを超える場合は使用できません。

- 冷媒配管最小肉厚・材質
配管は最小配管肉厚以上のものとしてください。

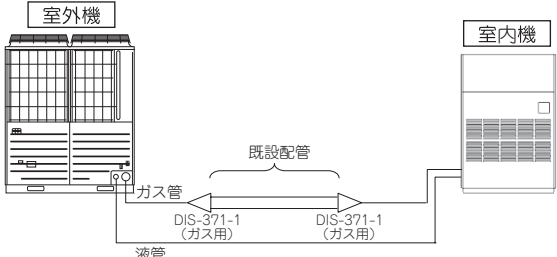
配管径	φ9.52	φ12.7	φ15.88	φ19.05	φ22.22	φ25.4	φ28.58	φ31.75	φ34.92	φ38.10
最小配管肉厚	0.8mm					1.0mm				
材質	O材					1/2H材				

- 当社従来機（ASP,ASJ形）の場合の利用可否

リフレッシュ設備室外機	AS-J	R22対応機		ガス配管		ASP	R407C対応機		ガス配管	
		液配管	利用可否	サイズ	利用可否		液配管	利用可否	サイズ	利用可否
224	200	φ15.88	○	φ22.22	○	200	φ15.88	○	φ25.4	○
280	280	φ15.88	○	φ25.4	○	280	φ15.88	○	φ28.58	○
450	400	φ15.88	○※1	φ22.22	○※2	400	φ19.05	○	φ31.75	○
560	560	φ15.88	○※1	φ25.4	○	560	φ15.88	○※1	φ28.58	○※1

- 印は利用可能を示します。
※1. 既設2系統有る配管のうち、1系統のみを使用する。
※2. 既設2系統ある配管を2系統共使用し、室内機・室外機近傍で分岐するよう配管加工する。
分岐には、分岐管セット(DIS-371-1)を2セット使用し、ガス管用を使用してください。

- 既設配管を2系統共使用する場合
室内機・室外機近傍で分岐するよう配管加工し、配管接続してください。
分岐には、分岐管セット(DIS-371-1)を2セット使用し、ガス管用を使用してください。
既設2系統の配管は同一経路を平行して設置されていること。
それぞれの系統が同じ長さとなること。



- (3) 室外機出口配管仕様
既設配管のサイズに合わせ、付属配管を適宜使用して接続してください。

室外機	室外機出口配管仕様					
	ガス管	接続方法	液管	接続方法	均油管	接続方法
224, 280, 450	φ28.58×t 1.0	ろう付け	φ15.88×t 0.8	フレア	φ9.52×t 0.8 ※1	フレア

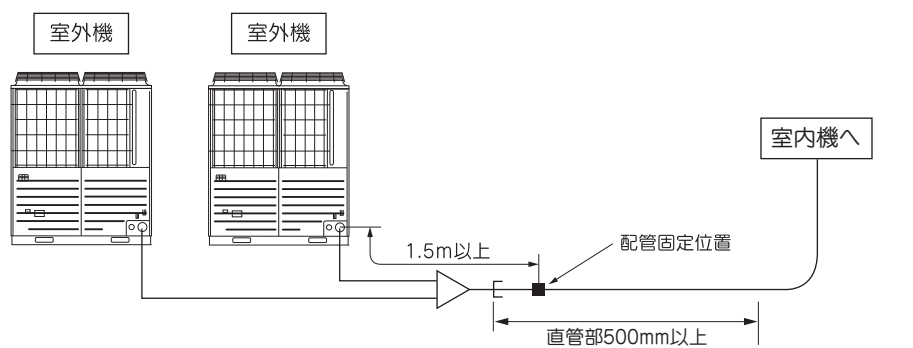
※1:均油管は組合せユニットに使用する場合、親機と子機間で接続してください。(単独ユニットとして使用する場合は接続しないでください。)

- X1,X2,Y1,Y2,Z1,Z2の寸法については、下表を参照ください。

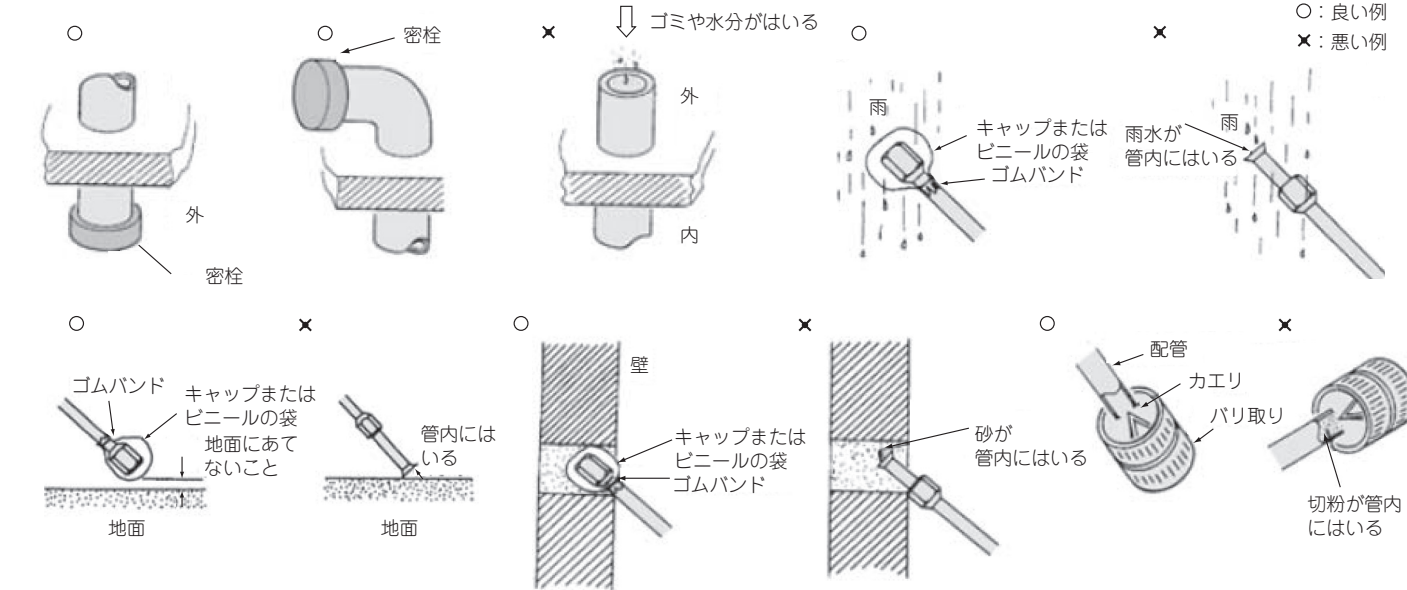
一体形		組合せ	
機 種	224, 280, 450	機 種	280
X1	301.6	X1	301.6
X2	277.2	X2	173.3
Y1	108	Y1	108
Y2	146.5	Y2	146.5
Z1	58	Z1	58
Z2	112.5	Z2	101.6

●配管の取出しは上図に示す通り前・右・下・後が可能です。
●現地配管接続時、外板の貫通穴のハーフブランク(φ88又はφ100)をニッパにて切断し切り落としご使用ください。
●配管取出し部により小動物等の侵入が考えられる場合は、配管取出し口閉鎖材(現地手配)で塞いでください。
●ドレン集中排水の際には、配線・配管の取出し口は下抜き以外をご利用ください。下抜きをご利用の場合は、ドレン水の流出がないよう十分シールしてください。
●現地配管は、エルボ(現地手配品)を利用して操作弁と接続してください。
●現地配管の固定は下図のように配管固定部と室外機までの距離が1.5m以上になるようにしてください。
(防護方法によっては現地配管が折れる可能性があります。)

- 組合せ機は、下図のようにガス管および液管ともに、必ず分岐管(型式DOS)前に500mm以上の直管部を確保してください。



- (2) 現地配管施工
重要
●施工する配管はユニット内部部品に接触しないように注意ください。
●現地配管施工は、操作弁を全開のまま行ってください。
●配管は、接続の直前まで塗装・キャップ等でカバーして水分、ゴミ、ほこり、切粉、壁材などが入らないようにしてください。



- 冷媒配管はできるだけ短く、直線になるように施工する。やむを得ず曲がり取る場合は、曲げ半径を配管外径の4倍以上にしてください。曲げ直しを何度も行わないでください。
●冷媒配管を曲げる場合はベンダを使用し、パイプが2/3 D 以下につぶれないようにしてください。
●室外機と冷媒配管との接続はフレア方式です。配管にフレアナットを取付け後、フレア加工を行ってください。
①パイプ切断：パイプの長さに余裕（30～50 mm）をもって、パイプカッターを使用し、切断面を直角にしてください。
②バリ取り：切り粉が配管内に入らないように、配管を下向きにして、リーマを使用してください。
③バリの鋼くず除去：配管内部の鋼くずを、ドライバの柄などで軽くたたき、ガーゼ棒を使用して除去してください。
④フレア加工：フレアナットを挿入し、フレアタイラから配管先端までは適正寸法でセットし（下表）、フレア内面はキズがないように真円で均一に加工してください。
R410Aのフレア加工寸法は、従来のR22、R407Cとは異なります。R410A用フレアツールを推奨しますが、出し代調整ゲージにて出し代B寸法を調整すれば、従来のツールを使用できます。
⑤フレア部の確認：下表にてA寸法を確認し、図2のような形状となっていないか確認してください。

フレアナット二面幅：A(mm)		フレア管端部：A(mm)		フレア加工の鋼管出し代：B(mm)	
鋼管外径	H	鋼管外径	A	鋼管外径	リジッド(クラッチ式)の場合 R410A用ツール使用時 従来ツール使用時
φ6.35	17	φ6.35	0 A-0.4	φ6.35	0～0.5
φ9.52	22	φ9.52	9.1	φ9.52	0.7～1.3
φ12.7	26	φ12.7	13.2	φ12.7	
φ15.88	29	φ12.7	16.6	φ15.88	
		φ15.88	19.7		

P560の組合せ機の場合

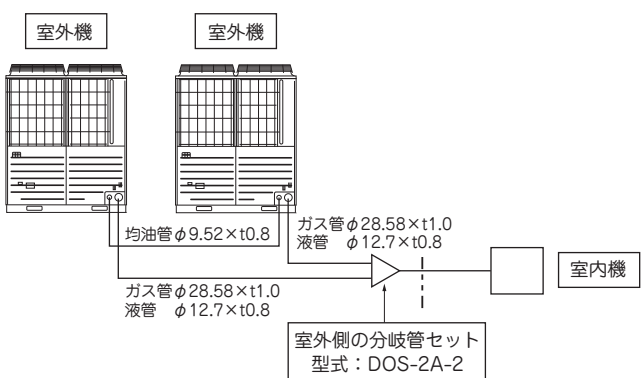
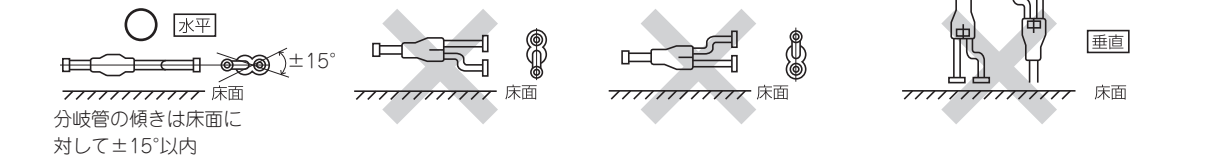


図 1

φ19.05以上はC1220T-1／2H材を使用ください。

- (ア) 室外側分岐管セット選定
本分岐管セットは室外組合せユニット時に必ず必要となります。
(単独ユニットとして使用する場合は必要ありません。)
- 室外機との接続管は室外機の接続配管サイズに合わせてください。
●室内機側への配管(=主管)は次項目に示す主管サイズに合わせてください。
●分岐継手(ガス・液共)は必ず“水平分岐”するように設置してください。



4－２．配管工事

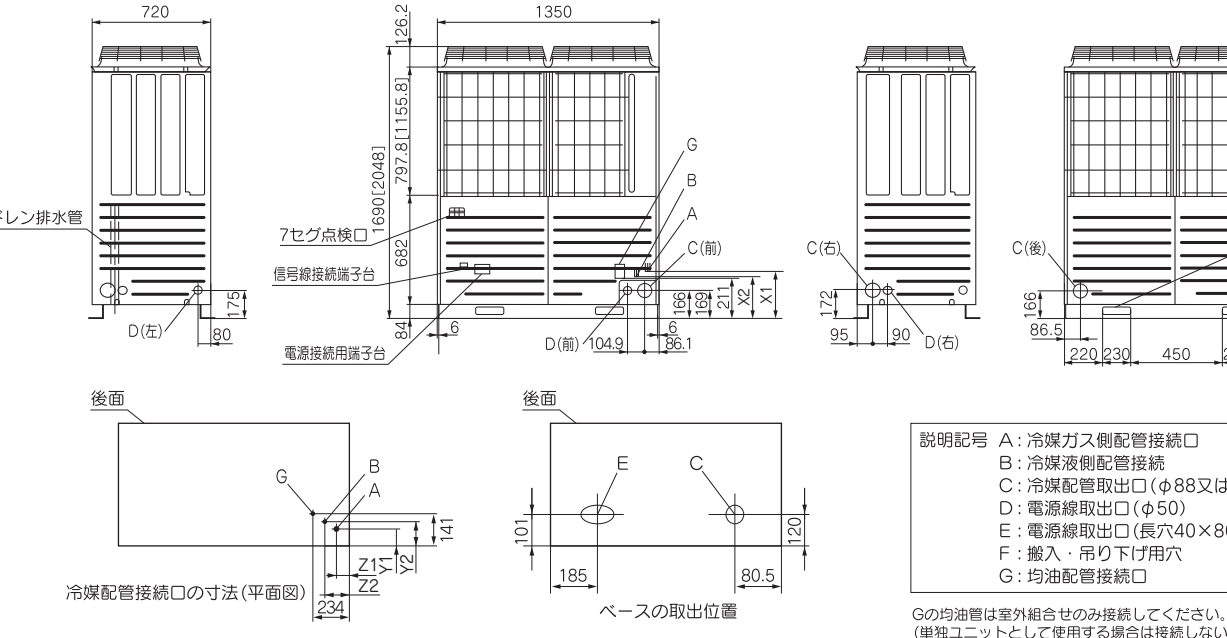
- (1) 配管接続位置と配管取出方向
付属配管
下表のように室外ユニットに付属配管を同梱しています。組合せ機として使用する場合や既設配管の配管径に合わせて適宜ご使用ください。

機 種	224	280	450
液配管	○	○	○
ガス配管	—	—	○

※他メーカーからの置き換えの場合、配管径が合わない場合があります。 ○印：付属配管同梱
※組合せの場合、室外側分岐管まで液管φ12.7、ガス管φ28.58で接続してください。

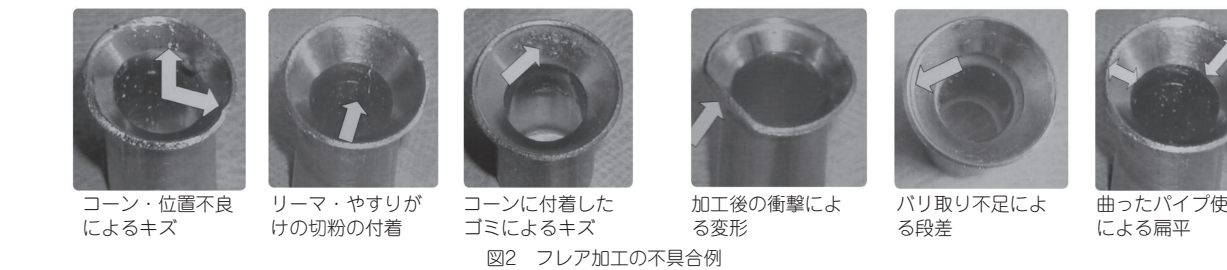


本図は容量224, 280の図を示していますが、450もユニット高さが違うのみで配管接続位置と取出方向は同じです。
[]内の寸法が450のユニット寸法を示します。



説明記号 A：冷媒ガス側配管接続口
B：冷媒液側配管接続
C：冷媒配管取出口(φ88又はφ100)
D：電源線取出口(φ50)
E：電源線取出口(長穴40×80)
F：搬入・吊り下げ用穴
G：均油配管接続口

Gの均油管は室外組合せのみ接続してください。
(単独ユニットとして使用する場合は接続しないでください。)

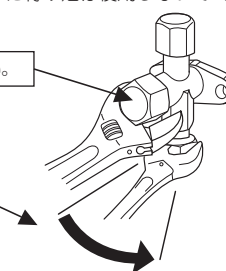


- フレア接続はダブルスパナでしっかり締め付けてください。フレアナットの締め付けトルクは下表の値で行ってください。下図のように操作弁本体を固定し、適正な締付トルクにて締め付けをお願いします。
●同一締付けトルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦係数が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、フレア部に付け油は使用しないでください。

操作弁サイズ	締 付トルク (N・m)	締付角度(°)	工具の推奨長さ(mm)
φ6.35 (1/4")	14～18	45～60	150
φ9.52 (3/8")	34～42	30～45	200
φ12.7 (1/2")	49～61	30～45	250
φ15.88(5/8")	68～82	15～20	300
φ19.05(3/4")	100～120	15～20	450

弁キャップ部にスパナ掛けしないでください。

トルクレンチの使用をお願いします。トルクレンチがない場合はフレアナットを手締めした後、左表を目安にフレアナットを締め付けてください。



ろう付け接続に関する注意

- 1) ろう付け作業は高度な技術と経験を要するため、労働安全衛生法で定めた溶接技能士又は、ガス溶接技術講習を終了した者が作業してください。
2) ろう付け接合面を重ね、そのすき間をろう材を溶着させるため、接合面積を十分に取り、適切なすき間を取ってください。
3) 銅管継手の最少はまり込み深さと、管外径と継手内径のすき間は、下表のとおりです。
4) 銀ろうの場合のすき間は0.05 mm～0.1 mm程度が、接続強度を最も高くすることができます。

管継手の最小はまり込み深さとすき間		単位 mm	
管径	最小はまり込み深さ	すき間	
φ6.35	5以上8未満	6	0.05～0.35
φ9.52	8以上12未満	7	
φ12.7	12以上16未満	8	0.05～0.45
φ15.88	16以上25未満	10	
φ19.05	25以上35未満	12	0.05～0.55
	35以上45未満	14	

- 5) ろう材については、次の注意事項を遵守してください。
a) 亜硫酸ガス濃度が高いなど、腐食性雰囲気では、リン銅ろうBCuPはイオウと反応しやすく、水溶性のろうい化合物を作り、冷媒漏えいの原因となるので、他のろう材（例えば銀ろう）にしてください。また、ろう付け部を塗装するなどの対策が必要です。
b) 低湿ろう（溶融温度が450℃未満のもの、いわゆる“はんだ”）は、強度が弱く冷媒漏えいを起こすおそれがあるため、使用しないでください。
c) 修理などで再ろう付けする場合は、同一ろう材を使用してください。ろう材の名称が同じでも号数が異なれば、再ろう付けできない場合があります。
6) フラックスを使用する場合は、母材の種類、形状及びろう材の種類及びろう付けの方法などによって、適切なフラックスの選定が必要となります。以下にフラックスの分類と注意事項を示します。
a) ろう付け後、フラックスを除去する。
b) フラックスに含まれる塩素が配管内に残留すると冷凍機油が劣化する原因になるので、塩素含有率の低いフラックスを選定する。
c) フラックスに水を追加する場合は、塩素を含まない蒸留水を使用する。その他、JIS Z 3621参照。

AW5 No.	使用形状	ろうのタイプ	活性温度範囲 単位 °C	フラックスの組成	母材の種類
FB3-A	ペースト	BAg, BCuP	565～870	ほう酸塩、フッ化物	すべてのろう付けできる鉄、非鉄金属合金
FB3-C	ペースト	BAg, BCuP	565～925	ほう酸塩、ボロン、フッ化物	すべてのろう付けできる鉄、非鉄金属合金
FB3-D	ペースト	BAg, BCuP, BNI	760～1205	ほう酸塩、フッ化物	すべてのろう付けできる鉄、非鉄金属合金
FB3-K	液状	BAu, BCuZn, BAg, BCuP	760～1205	ほう酸塩、フッ化物	すべてのろう付けできる鉄、非鉄金属合金
FB4-A	ペースト	BCuZn, BAg, BCuP	595～870	塩化物、ほう酸塩、フッ化物	Al 青銅、Al 黄銅、Ti 及び他の金属が少量添加されたもの

- 7) ろう付け作業は、配管材の内部に酸化皮膜が発生しないように窒素ガスを流しながら（窒素ガスブロー）施工してください。
8) 酸化皮膜が発生すると、はがれてキャピラリチューブ・膨張弁の詰まり及び圧縮機の故障の原因になります。
9) 作業手順
①窒素容器に減圧弁と流量計を取り付けてください。
②配管材に導く配管は細い鋼管を使用し、容器側に流量計を取り付けてください。

(2)電源配線接続時の注意

- アース線は電源線接続前に接続してください。また、端子台にアース線を接続する時は、アース線を電源線より長くし、アース線にテンションがかからないようにしてください。
- 電源は工事が完了するまで入れないでください。サービスは電源を切ってから行ってください。
- アース工事はD種（第3種）接地工事に基づき実施してください。
- 電源配線は必ず電源端子台に接続してください。
- 電源端子台への接続は、丸型圧着端子を使用ください。組合せ機で漏電しゃ断器1個用いる場合は、圧着端子が背中合わせになるよう配線ください。また、その場合線径の細い配線が上になるように配線してください。
- 配線は指定の電線を使い確実に接続し、端子部に外力が加わらないように固定ください。
- 端子のねじ締め付けには、適正なドライバーを使用してください。端子ねじを締めすぎるとねじを破壊する可能性があります。
- 電源工事終了後、電装品箱内の各電気部品品のコネクタ抜けや端子外れがないことを確認ください。

(3)室外機電源仕様：三相200V 3～ 50/60Hz電源

機種	電圧用 配線太さ(mm ²)	電線こう長 (m)	漏電しゃ断器 (地絡、過負荷、短絡保護兼用)	アース線 太さ(mm ²)	ねじの厚み
P224	14	53	40A 30mA 0.1sec以下	3.5	M8*
P280	14	42	50A 100mA 0.1sec以下	3.5	M8*
P450	38	65	100A 100mA 0.1sec以下	5.5	M8*
P560	38	65	100A 100mA 0.1sec以下	5.5	M8*

*計算上はM6ですが、ユニット付属のアースネジサイズに合わせています。

お願い

- (ア) 配線要領は内線規程（JEAC8001）に基づいて決められています。
- (イ) 表中のこう長・配線太さは、電圧降下を2％以内とした場合のこう長・配線太さを示します。
- 配線こう長が左表の値を超える場合は、内線規程に従い配線太さを見直してください。
- (ウ) 漏電しゃ断器が地絡保護専用の場合、別途配線用しゃ断器の設置が必要となります。配線用しゃ断器の選定については技術資料を参照いただくか、代理店又は弊社へお問い合わせください。
- (エ) 室内機電源仕様は室内機据付説明書をご覧ください。
- (オ) 室外機－室内機間の信号線はシールド線（MVVS）0.75～1.25mm²×2心を使用してください。
- シールド線は両端接地としてください。
- (カ) 組合せ機の電源は、フルボックスで分岐する場合と室外機間を渡る場合の2種類からお選びください。フルボックスは現地手配品です。
- (キ) 組合せ機にて各構成室外機単独に電源を接続する場合には、該当する一体形の機種の電源仕様に基づいて実施してください。

6－3. 信号線接続要領

本機では旧通信方式であるスーパーリンク（以下「IBSL」と表記します）とスーパーリンクⅡ（以下「SLⅡ」と表記します）の2通りの通信方式が選択できます。それぞれ以下の特徴、制限がありまのて接続する室内機や集中制御に合わせて選択してください。

SLⅡ未対応の室外機、室内機、集中制御機器が接続されているネットワークに信号線を接続する場合は冷媒系統が別であってもIBSLでの通信を選択してください。

通信方式	スーパーリンク（IBSL）	スーパーリンクⅡ（SLⅡ）
同一ネットワーク内の室内機台数	最大48台	最大128台
同一ネットワーク内の室外機台数	最大48台	最大32台
信号線（シールド線MVVS） （合計長さ）	1000mまで	シールド線（MVVS）0.75mm ² を使用する場合は1500mまで シールド線（MVVS）1.25mm ² を使用する場合は1000mまで
（最長長さ）	1000mまで	1500mまで
設備PAC（ASVPO004）以外に ネットワークに接続可能な機器	SLⅡ未対応機（FDOP○○○2LXシリーズ） SLⅡ対応機（FDOP○○○3LXシリーズ） （FDOP○○○4LXシリーズ） 混在も可能（同一冷媒系統内での混在は不可）	SLⅡ対応機（FDOP○○○3LXシリーズ） （FDOP○○○4LXシリーズ）

設備用パッケージエアコンP450、560形は室内機1台に2つの室内基板を配置しているため通信上は2台分として台数計算してください。

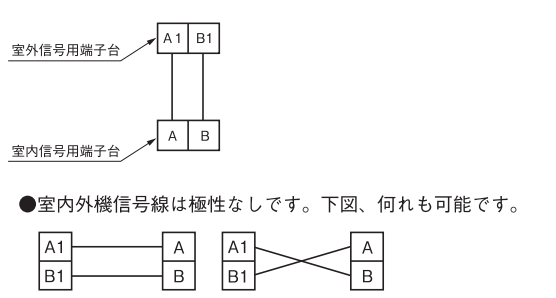
●信号線は DC5V ですので絶対に200Vの配線を接続しないでください。

- ①信号線に200Vが印加されないようになっていないことを確認してください。
- ②電源投入前に信号線端子台抵抗をご確認ください。信号線端子台抵抗が100Ω以下の場合は、電源線を信号線端子台に接続している可能性があります。
- 3型以降のユニットだけが接続されている場合
- 抵抗値の目安＝5100/接続台数
- 2型以前のユニットだけが接続されている場合
- 抵抗値の目安＝9200/接続台数
- 3型以降と2型以前のユニットが混在して接続されている場合
- 抵抗値の目安＝46000／〔（2型以前の接続台数×5）＋（3型以降の接続台数×9）です。
- 接続台数には室内機・室外機・SL機器を含みます。
- 抵抗値が100Ω以下になる場合は同一ネットワーク上の室内機台数を減らすため、一時的に信号線を外して複数のネットワークに分離し、個別に確認してください。

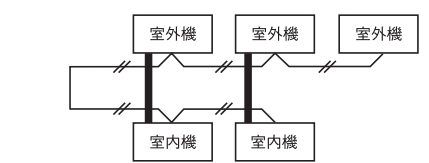
室内・室外信号線

- A1・B1に室内・室外機間信号線をつないでください。
- A2・B2に室外機間信号線をつないでください（ビル用マルチ機と同一ネットワークとする場合）。
- 信号線はシールド線（MVVS）とし、両端接地としてください。

(1) 設備用パッケージエアコン1台の場合



(3) 下図のように信号線を接続する方法も可能です。

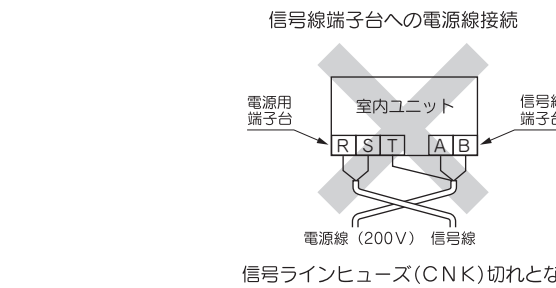


リモートコントローラ配線仕様

- リモコン線は0.3mm²×2心が標準です。延長は600mまで可能が標準です。延長は600mまで可能です。100m以上の場合は、下表に示す配線を使用してください。

長さ（m）	配線太さ
100～200以内	0.5mm ²
～300以内	0.75mm ²
～400以内	1.25mm ²
～600以内	2.0mm ²

ご注意 室内・外ユニット間の誤配線以外に、以下の誤配線があります。ご注意ください。



7. コントローラーの設定

7－1. ユニットアドレスの設定

本制御システムでは、複数の空調機の室外機と室内機及びリモコンからなるコントローラを、各コントローラ内のマイコンにより通信制御するものです。アドレスの設定は室外機と室内機の両方とも行ってください。出荷時のアドレス設定は室外機はNo.49、室内機はNo.000に設定されています。室外→室内の順で電源を入れてください。間隔は1分を目安にしてください。

本機では旧通信方式であるスーパーリンク（IBSL）とスーパーリンクⅡ（SLⅡ）の2通りの通信方式が選択できます。それぞれ6-3の特徴、制限がありますので接続する室内機や集中制御に合わせて選択してください。

SLⅡ未対応の室外機、室内機、集中制御機器が接続されているネットワークに信号線を接続する場合は冷媒系統が別であっても旧IBSLでの通信を選択してください。

アドレス設定後通信ができるようになったら室外機7セグで通信方式を確認してください。

●アドレス設定の種類

アドレス設定方法は手動設定方法のみです。本説明書をよく読んでご使用願います。

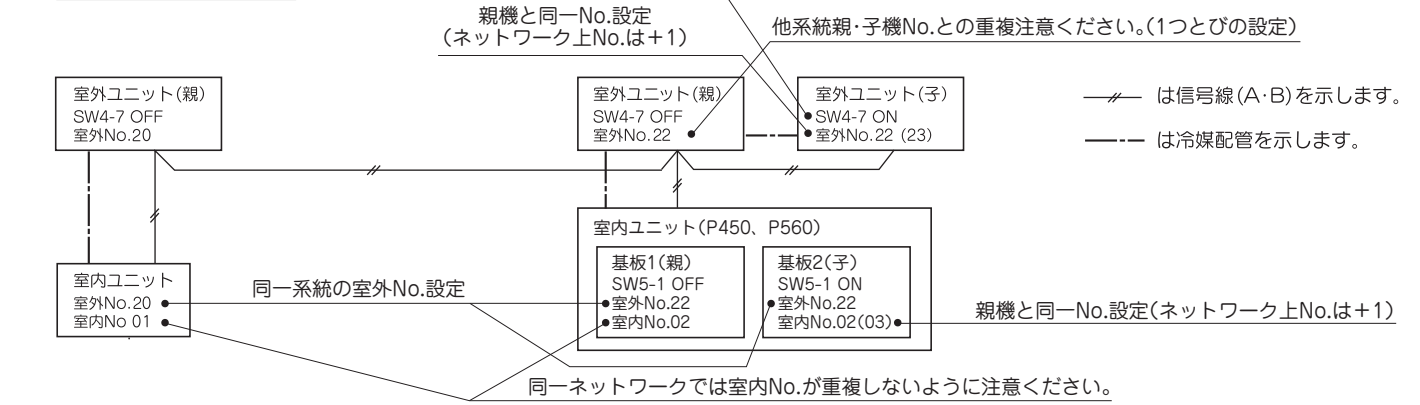
通信方法	SLⅡ	IBSL
アドレス方法	手動	手動
冷媒系統が1系統の場合（信号線が冷媒系統をまたがない場合）	OK	OK
複数の冷媒系統を信号線で接続する場合 （例えば集中制御を行う場合）	ケース1 複数の冷媒系統を接続する信号線が室外機間で接続されている場合 （ネットワークコネクタを外した際に各冷媒系統が1系統ずつに分離される状態） ケース2 複数の冷媒系統を接続する信号線が室内機間で接続されている場合	OK OK

13

ご注意
子機アドレスは親機＋1となります。親機アドレス設定時には、他系統との重複にご注意ください。運転できません。
（エラー表示 E-31）

- ③室外機→室内機の順で電源を入れてください。間隔は1分以上を目安にしてください。
- ※同一ネットワーク内にSLⅡ未対応機がある場合、SW5-5をON にして通信方式をIBSLとしてください。IBSLの場合、ネットワーク最大接続室内機台数は48台です。

アドレス設定例（手動）



7－2. 制御の切換

室外機の制御内容は、下記のとおり基板上のディップスイッチと7セグ上のPOCにて切換えることができます。

7セグ上のPOC切換時は、SW 8(7セグ表示アップ：1位)、SW 9(7セグ表示アップ：10位)及びSW7(データ送込/決定)長押しにて設定することができます。

制御の詳細説明は技術資料を参照ください。

制 御 切 換 方 法		制 御 切 換 内 容	
基板上 SW設定	7セグ上 P00設定		
SW3-7 を ON*1	外部入力機能割り当てを "2" に設定*1	冷暖強制モード (外部入力端子開放の場合冷房、短絡の場合暖房と固定できます)	
SW5-1 を ON + SW5-2 を ON	—	冷房试运行	
SW5-1 を ON + SW5-2 を OFF	—	暖房试运行	
室外機の液操作弁を閉じ、下記に示す順に操作する。 (1)基板上 SW5-2 を ON (2)基板上 SW5-3 を ON (3)基板上 SW5-1 を ON	—	ポンプダウン運転	
SW4-5:OFF, SW4-6:OFF*1 SW4-5:ON, SW4-6:OFF*1 SW4-5:OFF, SW4-6:ON *1 SW4-5:ON, SW4-6:ON *1	80%(出荷時設定) 60% 40% 0%	外部入力機能割り当てを "1" に設定*1	外部入力端子に信号を入力するとデマンドモードになります。 (J13短絡時：レベル入力、J13開放時：パルス入力)
SW5-5	—	通信方式切換 ON：IBSL通信 OFF：SLⅡ	
J13：短絡（出荷時設定）、J13：開放時	—	外部入力切換 (CnS1、CnS2のみ) 短絡：レベル入力、開放：パルス入力	
J15：短絡（出荷時設定）、J15：開放時	—	デフロスト切換 短絡：通常デフロスト、開放：寒冷地仕様	
—	P02	室外ファン防雪制御 0：制御無効(出荷時) 1：制御有効	
—	P03	室外ファン防雪制御 ON時間設定 30秒(出荷時) 10、30～600秒	
—	P04	デマンド率変更値(2段階デマンドor省エネモード制御*2) OFF：無効(出荷時) 000、040、060、080 [%]	
—	P05	静音モード設定 0：制御有効(出荷時)	
—	P06	外部出力(CnZ1)機能割り当て	
—	P07	外部入力(CnS1)機能割り当て	
—	P08	外部入力(CnS2)機能割り当て	
—	P09	外部入力(CnG1)機能割り当て	
—	P10	外部入力(CnG2)機能割り当て	
—	P66	設備PACハイパワー運転設定	
—	P69	省エネ制御	

- ※1 外部入力機能割り当て(横吹き仕様P07、上吹き仕様P07～10)と、SW両方が切り替えられた時に制御が切り換わります。
（例：CnS1を冷暖強制モードの入力に使用する場合P07を2、SW3-7をON、CnS2を冷暖強制モードの入力に使用する場合はP08を2、SW3-7をONする）
- ※2 省エネ制御の際は、外部入力端子に信号を入力しなくても能力制限が有効となります。

